

謝 辞

このたびは、多くの皆様方のご協力を得まして、「Japio YEAR BOOK 2022」を発行することができましたことを、心より御礼申し上げます。

今年度の特集テーマである「特許情報×AI」、「激変する世界の中の知財システム」に対し、これらの分野において第一線でご活躍されている皆様方にご寄稿を賜りました。ご多用のなか、ご執筆頂きましたこと、ここに深甚なる感謝の意を表します。

また、国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能センター 辻井 潤一 研究センター長から特別寄稿を賜りますとともに、官公庁、各種団体、大学、企業等の各界を代表される方々から多数のご寄稿や情報システム・サービスのご紹介を賜りましたことを、重ねて厚く御礼申し上げます。

本誌に掲載された情報は、特許情報や技術情報に関係される多くの方々に有益な情報となり、さらに情報システム・サービスを提供しておられる各社様の今後のご発展の一助になるものと確信しております。

また、今般の一般社団法人日本デザイン保護協会との合併により、新たにデザイン部を創設いたしました。今後は、従来からの業務である特許・商標に関するサービスに加え意匠情報を含む産業財産権の総合的情報サービスの更なる向上に取り組み、Japio YEAR BOOK においても意匠情報の積極的な発信を行います。

当財団は、質の高い特許情報を提供することにより、経済社会への貢献を目指すことを理念として、企業の技術開発の促進等に貢献すべく、特許情報の充実と普及啓発に取り組んでおります。

全世界規模の新型コロナウイルス感染症や、脱炭素経済社会に向けた動きを発端として、社会を取り巻く環境が激変する世界において、今後この理念を時代に沿った形で実現していくために、特許情報の「機械翻訳」、「検索」、「分析」に関連する技術の研究や、急速に進展してきた特許情報、意匠情報、商標情報へのAI技術の活用研究を通じ、当財団が提供する情報の品質向上及び高度化に努めて参ります。さらに「産業日本語」の研究・普及、「Japio YEAR BOOK」発行や「特許情報フェア&コンファレンス」開催などの機会を通じて、特許情報に関する最新技術動向を広くお知らせし、社会に貢献していく所存です。

今後とも、私ども一般財団法人日本特許情報機構に対して、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、謝辞とさせていただきます。